

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「誇りと生きる力を身につけ、心身ともに豊かな基里っ子」の育成 ～「気持ちのよい学校」にしよう～	①学力の向上(ステップ1・2・3 Vol.1 Vol2 の積極的活用、ICT活用教育、UD教育の推進) ②心の教育の充実(人権・同和教育の推進、特別支援教育の推進、生徒指導・教育相談の充実) ③体力の向上、食育・給食指導の充実 ④家庭との連携 ⑤安心・安全な学校生活 ⑥学校運営協議会の推進(地域との連携強化、小中一貫教育の推進)



3 目標・評価						
①学習習慣の定着とICT活用教育の推進を図り、学力の向上を目指す。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力の向上	基礎学力の定着を図ることができたか。	・アンケートで、「基礎的な学習内容を身に付けることができた」と答える児童・保護者が70%以上をめざす。	・「わかる授業」「考えさせる授業」をするために、「ステップ1・2・3」及び「ステップ1・2・3 Ver.2」を意識した授業に取り組む。 ・「スキルタイム」、「もくもくタイム」を充実させる。 ・わかりやすい授業を目的に、電子黒板を活用した授業に積極的に取り組む。 ・落ち着いた学習環境づくりの一環として、「筆箱チェック」を年に数回行う。 ・表現力である「話す・聞く」スキルを向上させるため、「音読タイム」を行う。 ・言語に関する技能を高めるために、全校で同一教材を用いて「ことばタイム」を行う。 ・少人数指導、TTによる指導の充実を図る。	学びづくり部	○田中大森
		主体的学習習慣を育成することができたか。	・学年ごとの家庭学習時間を達成できる児童70%以上をめざす。	・家庭学習時間(1・2年生は30分、3・4年生は45分、5・6年生は1時間以上)を学年ごとに設け、確実なものにするために、生活点検表でチェックを行う。 ・基本的な学習習慣を身に付けさせるために、「家庭学習の手引き」を活用するように声をかけを行う。 ・家庭学習の重要性を保護者を知ってもらうために、学び部から年に数回、便りを発行する。		○田中大森
	○学校図書館の活用	学校図書館を十分活用することができたか。	・年間貸出目標冊数を達成する児童80%以上をめざす。	・貸出目標冊数を達成した児童の紹介・表彰を行い、児童の読書意欲を喚起する。 ・年2回、図書室主催の催しものを行い、児童の図書館への関心を高める。 ・親子読書や家読を奨励し、家庭での読書の習慣を図る。		○岩橋井手
学校運営	○教職員の資質向上	授業力の向上に努めることができたか。	・アンケートで、通常授業、TT、少人数授業について、「わかりやすい」と答える児童や保護者が、75%以上をめざす。 ・アンケートで、「小中一貫教育の具体的授業実践に取り組めた。」と答える教職員が、75%以上をめざす。	・「わかる授業」「考えさせる授業」をするために、「ステップ1・2・3」及び「ステップ1・2・3 Ver.2」を意識した授業に取り組む。 ・教材、教具、導入等多様な指導の工夫と評価を行うことで、わかりやすい授業を創り出していくようにする。 ・小中一貫教育の授業についての情報交換を行うようにする。 ・アクティブ・ラーニングを意識した「主体的・対話的で深い学び」の授業を、常に心がけ、それを視点に小中合同の授業研究会を行う。 ・学習するにふさわしい落ち着いた学校、児童の学びの足跡が分かる教室づくりを工夫する。	運営部	○教務大森 脇岡
	○業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の業務改善・働き方改革に努めたか。	・教材研究や教材作り、校内研究等に費やす時間のマネジメントを行うことで、退勤時間を昨年度より30分間早めることをめざす。	・学年間で話し合い、授業の流れを共有化したり、教科や単元ごとに教材や教具等の準備を分担したりして効率化を図る。		○校長 教頭 教務

②挨拶・いじめの未然防止等の取り組みと特別支援教育の推進を通して、心の教育の充実を図る。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	道徳教育の充実にも努めたか。	・年間1回、全ての学級において「特別の教科 道徳」の授業を公開する。(100%)	・「特別の教科 道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。 ・「特別の教科 道徳」の時間に学習したことを体験活動と結び付ける工夫をする。	心づくり部	○迎 武川
		豊かな体験活動の導入と充実にも努めたか。	・アンケートで、総合的な学習の時間や、学校行事が「楽しい」と答える児童が80%以上をめざす。 ・アンケートで、体験活動の積極的な導入に努めたと答える教師が80%以上をめざす。	・総合的な学習の時間において児童の興味・関心を生かしながら、探究活動において体験学習をより多く取り入れていく。 ・体験活動で学んだことなどを表現する場として「基里っ子集会」を位置づけ、児童の意欲を喚起する。		○白水 佐藤 浅井
	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止・早期発見にも努めたか。	・アンケートで、「学校が楽しい」と思う児童が80%以上をめざす。 ・アンケートで、「困ったことや悩みがあったときは話せる相手がいる」と答える児童が80%以上をめざす。	・「生活アンケート」を、毎月の「鳥栖市いじめとのちを考える日」に書かせて早期発見に努める。 ・互いに認め合う支持的学級づくりに努める。 ・教育相談研修会を月2回または必要に応じて開き、実態把握や対応を協議する。		○古賀 中山 岩橋
		○特別支援教育の推進	・アンケートで、「困り感を持つ児童のよりきめ細やかな指導・支援を行うことができている」と答える教職員が80%以上をめざす。	・誰もが分かりやすい授業をするために、日頃からUD教育を行うように努める。 ・特別支援教育に関する研修会(今年度はUD教育について)を年1回以上開く。 ・児童の実態を把握し、保護者・SC・SSW・行政機関・関係機関等との連携を図る。		○横 迎 中山 牟田 武川
	○生活習慣の定着	「基里小5つの約束」の徹底を図ることができたか。	・アンケートで、「元気にあいさつ・返事」「無言掃除」「言葉遣い」「正しい身なり」「廊下歩行」などの「基里小5つの約束を守ることができた」と答える児童・保護者が80%以上をめざす。	・毎月の生活のめあてを校内に掲示して、意識付けさせるとともに、「基里小5つの約束を守れたか」について、年3回の生活点検表でチェックする。 ・毎月の生活朝会で、基里小5つの約束について継続して指導する。 ・掲示をすることで、意識付けを図る。		○藤田 山本
	○安全教育の徹底	安全指導の徹底にも努めたか。	・アンケートで、「安全に気を付けて生活できた」と答える児童・保護者が90%以上をめざす。 ・アンケートで、「安全指導に努めた」と答える教職員が100%になることをめざす。	・交通安全教室や不審者対応避難訓練を実施する。 ・学校運営協議会・交通指導員・見守り隊の協力を得て、これまで以上に、安全・安心に登下校ができるようにする。 ・施設の安全点検の徹底、通学路の安全確保に努める。 ・ヘルメット着用、防犯ブザー所自の確認を定期的に行う。		○白水 迎 教務
学校運営	○教職員の資質向上	児童がお互いに認め合う人間関係作りに努めたか。	・アンケートで、「学級内や異学年間、地域との交流によりお互いに尊重する態度を育成できた」と答える教職員が 80%以上をめざす。	・Q-Uテストの「学級生活満足群」に属する児童を増加させるための手立てを工夫する。 ・毎月1回以上、児童理解向上のための生徒指導・教育相談打ち合わせ会を行う。	運営部	○教務 教頭 藤田 古賀
	○業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の業務改善・働き方改革に努めたか。	・児童の登下校を見守る地域の方の割合について、現在の10%増をめざす。 ・アンケートで、「いじめや問題行動、保護者対応など、昨年度より気持ちとしては楽になった」と答える教職員が75%以上になることをめざす。	・学校運営協議会の協力を得て、児童が登下校する時間帯に少しでも多くの地域の方に立つてもらうようにする。それにより、教職員の朝の交通指導や放課後の巡回指導の数を減らし、負担軽減につなげる。 ・教育相談や生徒指導等の話し合いで情報を共有化することにより、気になる児童の対応を担当だけが抱え込まず、組織として学校全体で対応するようにする。 ・いじめや問題行動、保護者対応は、担任だけに任せず、組織として積極的、効果的に対応し、担任の負担を軽減する。		○校長 教頭 教務

③健康・体づくりの推進と食育・給食指導の充実を通して、体力の向上を目指す。						
教育活動	●健康・体づくり	運動習慣の改善や定着化に努めたか。	・アンケートで、「体育や運動が楽しい」と答える児童が全学年90%以上をめざす。	・体育の授業例や学習カード、がんばりカードなどを紹介し、それを活用した授業を行う。 ・昼休み等の外遊びのおもしろさを伝えたり、みんなで遊ぶ時間を設定したりする。	体づくり部	○向井 松島
		望ましい生活習慣の形成や望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成に努めたか。	・アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはん」が守れたと答える児童・保護者が85%以上をめざす。 ・アンケートで、「食の大切さがわかる」と答える児童が85%以上をめざす。	・保健便りやアンケートを通して、「早寝・早起き・朝ごはん」や食の大切さの理解と啓発を行う。 ・朝ご飯の内容についても振り返らせる機会をもつ。 ・養護教諭や栄養職員と連携して、食育や保健指導の授業を実施する。 ・1年生は、5年生の宿泊訓練に合わせて、親子給食試食会を行う。その中でバランスのとれた食事の大切さについて話し、児童や保護者の意識を高める。		○古賀 木塚
	○自主的、実践的な態度の育成	自主的、実践的な態度の育成に努めたか。	・校内で行う挨拶運動を異学年交流で15回以上行う。 ・全校でレクリエーションを2回以上行う。	・挨拶運動やなど代表委員会で決定した取組について、児童が自主的、実践的に取り組むことができるように、担任が協力して手立てを工夫する。 ・委員会活動や係活動などの児童がやるべき仕事について、自主的、実践的に取り組むことができるように、手立てを工夫する。		○藤田 浅井
学校運営	○業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の業務改善・働き方改革に努めたか。	・アンケートで、「体験活動など、学校運営協議会を中心とした地域の方の協力により、昨年度より楽になった」と答える教職員が70%以上になることをめざす。	・栄養教諭と共に食育に関する授業実践をしたり、栄養教諭に食育指導を行ってもらったりすることで、担任が、効果的、有効的な食育・給食指導を獲得する。 ・体験活動を行う際、学校運営協議会を中心とした地域の方に協力を依頼し、教職員の負担軽減につなげる。	運営部	○校長 教頭 教務

3 目標・評価						
④保護者や地域への学校教育活動の公開に努め、理解や協力を得る。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○危機管理	多様な事象への対応ができたか。	・危機管理マニュアルを実効性のあるものとなるように見直すとともに、対応や役割分担等を共通理解する。 ・児童・保護者の危機回避意識を高める。	・危機管理マニュアルを実効性のあるものとなるように見直し、職員会議等で共通理解する。 ・事前に予測される危機に対して、教職員全員で組織的な対応をいつでもとれる組織体制づくりを、職員会議等で確認しておく。	運営部	○教頭 校長 教務
	○開かれた学校づくり	授業・行事等の公開に努め、家庭・地域の協力を得ることができたか。	・授業・行事等への保護者の参加率80%以上を目指す。 ・ホームページの更新を月に1回以上行う。	・学校便りやホームページによる情報発信を行う。 ・携帯サイト「まちこみ」の加入促進を図り、加入率100%を目指す。「まちこみ」の適切・効果的な活用を図る。 ・PTAとの連携機会を増やし情報を交換する。		○教頭 校長 教務
	○魅力ある学校づくり	学校と地域の協働による体験活動を推進できたか。	・外部や地域ボランティアを活用した体験活動を各学年1回以上行う。	・各学年で年間2回以上、外部や地域ボランティアを活用する。 ・学校からのお便り等で外部や地域ボランティアを活用した体験活動の様子をお知らせし、協力の輪をさらに広げる。 ・学校運営協議会によるコーディネート推進する。		○教頭 教務
	○保護者や地域と協働した学校づくり	学校運営協議会を中心に、地域人材を積極的に活用することができたか。	・地域と連携した取組について、保護者評価や学校関係者評価の70%以上が、協力した取組ができていたと認める。	・区長会、民生児童委員協議会で情報交換を行う。 ・学校運営協議会を開催し情報交換を行い、可能なことから実践し続ける。 ・子ども110番の活用と地域見守り隊との連携を図る。 ・授業参観・学校行事に招待して、参加してもらう。		○校長 教頭 教務

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○小中一貫教育	小中一貫教育を推進することができたか。	・毎月1回小中合同校内研究会を行い、校内研究を推進する。 ・4年～6年の小中の「乗り入れ授業」や児童会・生徒会による交流を年に1回以上行い、中1ギャップの解消に努める。	・月に1回以上、小中合同の研究推進委員会を開催し、効果的かつ効果的な小中合同校内研を行う。 ・乗り入れ授業や児童会・生徒会行事で小4と中3、小5と中1、小6と中1の交流を行う。	学びづくり部	○大森 田中
	○教科「日本語」の推進	教科「日本語」の授業を推進することができたか。	・年間1回、全ての学級において教科「日本語」の授業を公開する。(100%) ・アンケートで、「教科『日本語』の授業実践に(意欲的に)取り組めた。」と答える教職員が、80%以上をめざす。	・実践事例集を参考にし、学級の実態に合わせてながら、授業を行う。 ・校内研修でも教材研究の時間を設定し、指導の工夫を図りながら授業を実践したり、授業を参観したりする。 ・教科「日本語」の授業についての情報交換を行う。		○井手 岩橋

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目